

専門領域別企画 | 専門領域別：発育発達

📅 2025年8月27日(水) 10:45 ~ 11:45 📍 1301教室(教育研究棟 1街区 3階 1301)

[1a1601-01] 発育発達／キーノートレクチャー／子どもにおける「マルチスポーツ」の現在と今後の課題

司会:佐々木 玲子(慶應義塾大学)

[07発-KL-1]

子どもにおける「マルチスポーツ」の現在と今後の課題

*河村 剛光¹ (1. 順天堂大学)

専門領域別企画 | 専門領域別：発育発達

■ 2025年8月27日(水) 10:45 ~ 11:45 ■ 1301教室(教育研究棟 1街区 3階 1301)

[1a1601-01] 発育発達／キーノートレクチャー／子どもにおける「マルチスポーツ」の現在と今後の課題

司会:佐々木 玲子(慶應義塾大学)

[07発-KL-1] 子どもにおける「マルチスポーツ」の現在と今後の課題*河村 剛光¹ (1. 順天堂大学)**<演者略歴>**

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科出身。専門は測定評価学、スポーツ視覚学、体力学などではあるが、多くの競技種目や研究領域に興味関心があり、院生たちと研究を行っている。スポーツと視覚に関する研究からも、発育発達期の子どもの頃の多様な経験の重要性を感じ、マルチスポーツに関する研究調査にも着手。

わが国におけるマルチスポーツは、海外に比べて一般的ではない。子どもの頃に複数（マルチ）のスポーツ種目を経験して、その後に専門とする競技を選択していくマルチスポーツの考え方には利点も多い。マルチスポーツに関連した怪我・オーバーユース・燃え尽きについての報告例は一定数以上あるが、本キーノートレクチャーでは幅広く先行研究を概観し、わが国の子どものスポーツ経験に関わる我々の研究調査を含めて報告する。これまでも発育発達期には、多様な経験、多様な動きをすることが推奨されてきた。かつて我が国では、専門的に競技を行うのは中学生以降であることも多かったが、近年では子どものスポーツ環境が整ってきた影響もあり、早期に1つの競技に専門化するケースも増えた。我々の調査では、小さな頃から1つの競技種目だけに特化しなくとも、一定の競技レベルに到達することが可能であると考えられた。また、年代や競技種目による特徴の違い、競技を終えた後の（健康のための）運動習慣という観点からも検討を行ってきた。本キーノートレクチャーの最後では、これらの研究経験とレビューから、今後の研究課題として必要とされる切り口についても考えていく。